主催者挨拶

井　上　正　幸（文部科学省国際統括官）

本日は、皆様方におかれましては、ご多忙な中、文部科学省・筑波大学国際教育協力シンポジウムにご出席いただき、また、平素から開発途上国への国際教育協力の推進にご協力いただき、御礼申し上げます。

1954 年に我が国がコロンボ計画へ加盟して以来、これまでに、インフラの整備から保健・医療に至るまで、幅広い分野において ODA を実施してきましたが、とりわけ、人間の一生を通じて、人格形成と、人権、環境、経済産業等のあらゆる領域の基盤を形成する教育は、開発途上国が自らの努力によって貧困から脱出し持続的に発展していくための基盤づくりに大きな役割を果たすための最重要分野です。なかでも、初等中等教育分野の協力重視は、世界的な潮流となっており、我が国としても開発途上国の自助努力を促しつつ、国際教育協力を促進する重要性がますます高まっているところです。

このような動きを踏まえ、文部科学省では、開発途上国を支援するため、我が国の経験と人材を活かした国際教育協力の取り組みを進めています。その大きな柱の一つとして進めているのが、青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」です。

現職教員は、指導案の作成、教材開発、各種技術指導など、児童・生徒に密着した実践的な教育経験や能力を有しています。このような人的資源を積極的に活用することによって、我が国の教育経験を活かし、開発途上国に対する効果的な教育支援を実現するのが同制度の目的の一つです。さらに、これらの教員が開発途上国において国際教育協力に従事することによって、コミュニケーション・異文化理解の能力を身につけ、国際化のための素養を児童・生徒に波及的に広めることや、帰国後に自身の経験を教育現場に還元することを通じ、将来の国際教育協力分野の人材の裾野を広げるのみならず我が国の教育の質を高める効果も期待できます。

制度創設以来の 3 年間で 183 名の現職教員が世界各地に派遣され活躍しています。来年度には、84 名が新たに派遣されることになっています。

また、文部科学省では、平成 15 年度より途上国に対する初等中等教育分野等の協力強化を目的とした拠点システム事業に取り組んでいます。その中で、筑波大学を拠点に青年海外協力隊で派遣される教員の方々に対する事前研修や、派遣期間中における専門的な相談、助言、帰国した教員の任地における協力経験を集約、体系化するなど、現職教員への支援を強化しているところです。派遣される教員の方々には心強い味方であると考えております。

このような協力活動を通じて、開発途上国と我が国の国民の共生を深めていくという意義は極めて大きいものです。文部科学省としては、今後も、我が国の経験と人材を活かした効果的な国際教育協力に取り組んでいきます。また、皆様方におかれましても、当シンポジウムが国際教育

協力を取り組む上での一助になることを願ってやみません。

最後に、本日のシンポジウムが、皆様方の、教員、行政、勤務地等、様々な職種、領域を超えたネットワーク構築のきっかけとなるとともに、更に多くの現職教員の派遣につながることを願いつつ、また、皆様方のこれからますますのご活躍を祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。